

雲の上にはいつも...

【No.6】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

「不揃(ふぞろ)いこそ安定感があって強い！」

初夏というより夏本番を感じさせる日もある今年の5月も後半に入りました。平成30年度の授業がはじまって、1か月余り...。学校生活や新しい学年にも慣れてきた頃でしょう。先日の朝会では学級の人権目標の発表がありました。16クラスの目標の中で多かったのは「なかよく」



や「笑顔」といった言葉。気持ちよく過ごすために目指すものは、大人も子どもも変わらないなあと感じました。藤城小学校の教育目標は「思いやりの心をもって、生き生きと活動する子」ですが、何が大切なのか、子どもたちはちゃんとわかっている。周りのみんなのことはもちろん、自分を大切に生き生きと生活するには、...



そんなイメージを、5月1日の朝会では法隆寺を例に考えました。1300年も前に奈良の斑鳩(いかるが)の地に建った法隆寺。きつとピシッとそろった立派な柱ばかり使っているんだろうと思ってしまいますが、実は曲がっていたりもする不揃いな材木ばかり。宮大工の小川国夫さんはこんなふうにおっしゃっています。「総持(そうも)ちといって、異なる一本一本が自分の個性を生かし、みんなで支え合っているから強い」「不揃いこそ安定感がある」(『不揃いの木を組む』)んだと...

このことは私たちの社会についても当てはまるのかもしれない。みんな違う家族。みんな違う学級。みんな違う学校...。一人ひとりが自分らしく頑張れる集団ほど強い。不揃いが支え合うから安定する。そんな藤城小学校にという思いから、今年度の学校教育目標の中に次の言葉を入れました。

「つながりを実感できる学校」 ~子どもにつけたい4つの力 ①人を大切にする力 ②自分の考えをもつ力 ③自分を表現する力 ④あきらめずに挑戦する力~

子どもたちに多くの力をつけてほしいと願うのは当然の親心でしょう。しかし、人と人とが支え合う社会というしくみの中で必要になってくるのは、実はこの4つの力だと思うのです。「なかよく、笑顔」で過ごすために。

詩人、金子みすゞに「こだまでしょうか」という短い詩があります。

「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう。／「馬鹿」っていうと「馬鹿」っていう。／
「もう遊ばない」っていうと「遊ばない」っていう。／そうして、あとで さみしくなって／
「ごめんね」っていうと「ごめんね」っていう。／こだまでしょうか いいえ、誰でも。



「こだまする」ことで子どもは...

東日本大震災のあと、「ポポポポ〜ン」とともにテレビのコマーシャルで何度も流れていたので、記憶にある方も多いかと思います。この詩については「優しい言葉かけには、優しい言葉が返ってくるんだよ」と一般的にはとらえられています。金子みすゞの詩を発見した矢崎さんという方は、次のようにおっしゃっています。



かつて、私たちの周りにいた大人たちは、こだましてくれる人たちでした。こだまとは、『丸ごと受け入れる』こと。道端で転んで「痛い」と叫んだとき、親は「痛いね」と私の痛さを丸ごと受け入れて返してくれました。それによって痛みは半分になる。そして、おじいさんやおばあさんはもっと上手に、「痛いね、痛いね、よし、よし。」と何度も繰り返したあとに、「痛いの、痛いの、飛んでいけ。」の呪文。おかげで痛みは完全に消すことができた、と。

私自身、我が身を振り返って反省しました。「痛い！」と叫ぶわが子に、「痛くない」と否定したり、「我慢しなさい」と励ますことだけになっていなかっただろうか。こだましてもらうことで痛みは消えていくのに、否定や励ましだけでは、消えることなく、ずっと残ってしまう。

大人と子どものこだまする関係。そんな中で、子どもたちは認められ、安心し、次第に自分の足で歩き始めます。叱るときは叱りながら、ゆっくりと育てていきましょう。

